



© 環境省

エコアクション21

認証番号0006252

環境活動のまとめ

OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2025

この報告書は2024年度の方針にそった
主な環境活動についてまとめたものです



生活協同組合 おおさかパルコプ

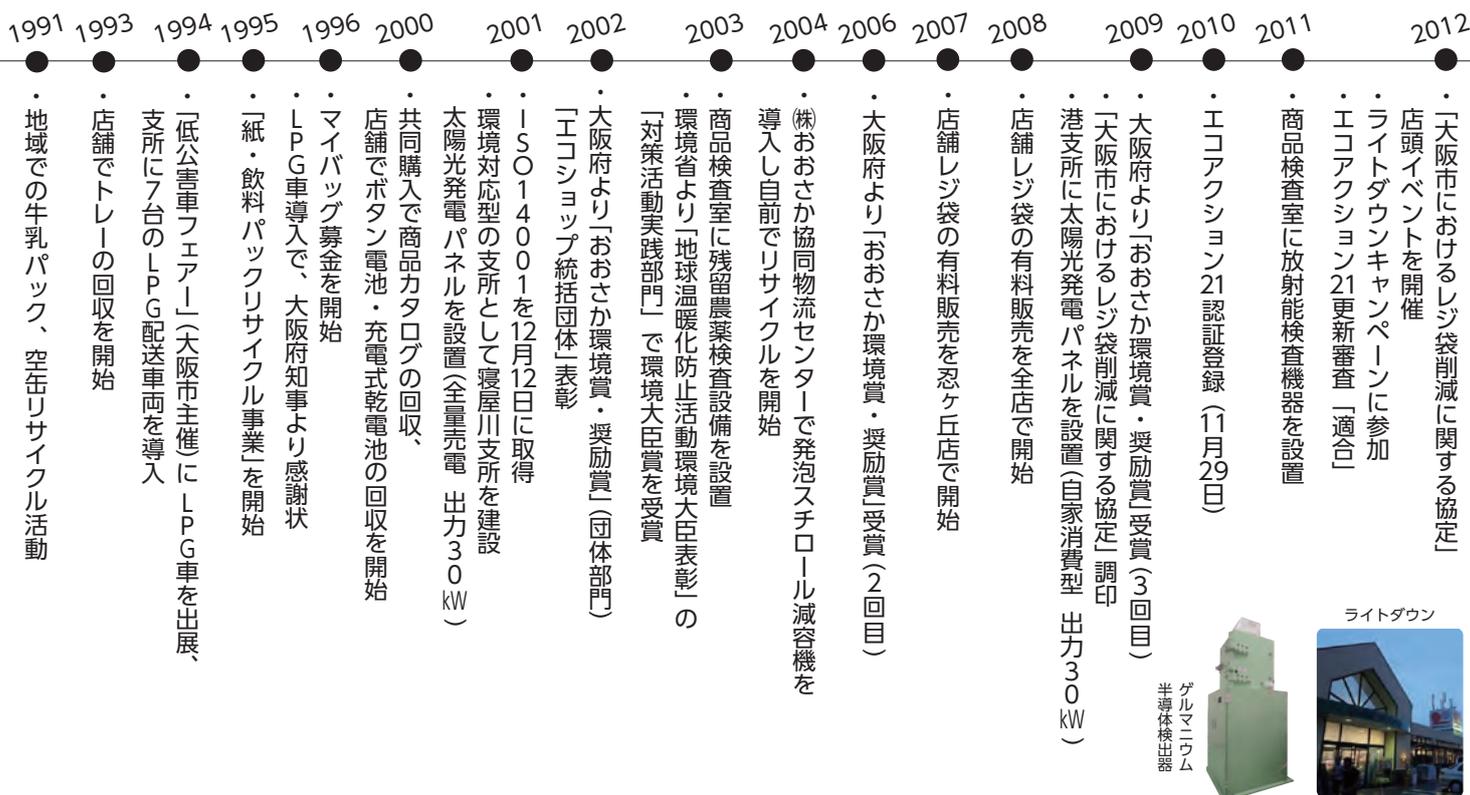
「環境活動のまとめ」発行にあたって

21世紀末の日本を20世紀末と比べた場合、年平均気温の上昇や猛暑日・熱帯夜の日数の増加、日本沿岸の海面水位の上昇、激しい雨の増加、日本付近における台風の強度の高まりが予想されています。また、世界の排水の80%は未処理のまま放出されており、海洋プラスチックごみ汚染の深刻化と生態系への影響が指摘されています。

2024年5月21日に政府の環境施策の大綱を定める「第六次 環境基本計画」が閣議決定されました。環境基本計画は、政府が一体となってすすめる施策とともに、地方公共団体や国民をはじめ、多様な主体に期待する役割についても示しており、気候変動対策や循環型社会の形成、水・大気・土壌の環境保全などの重点戦略が計画されています。

私たちは、生命や暮らしを守るために、これ以上の温暖化を食い止める行動を大胆に起こすことを求められています。

これまでの主なあゆみ

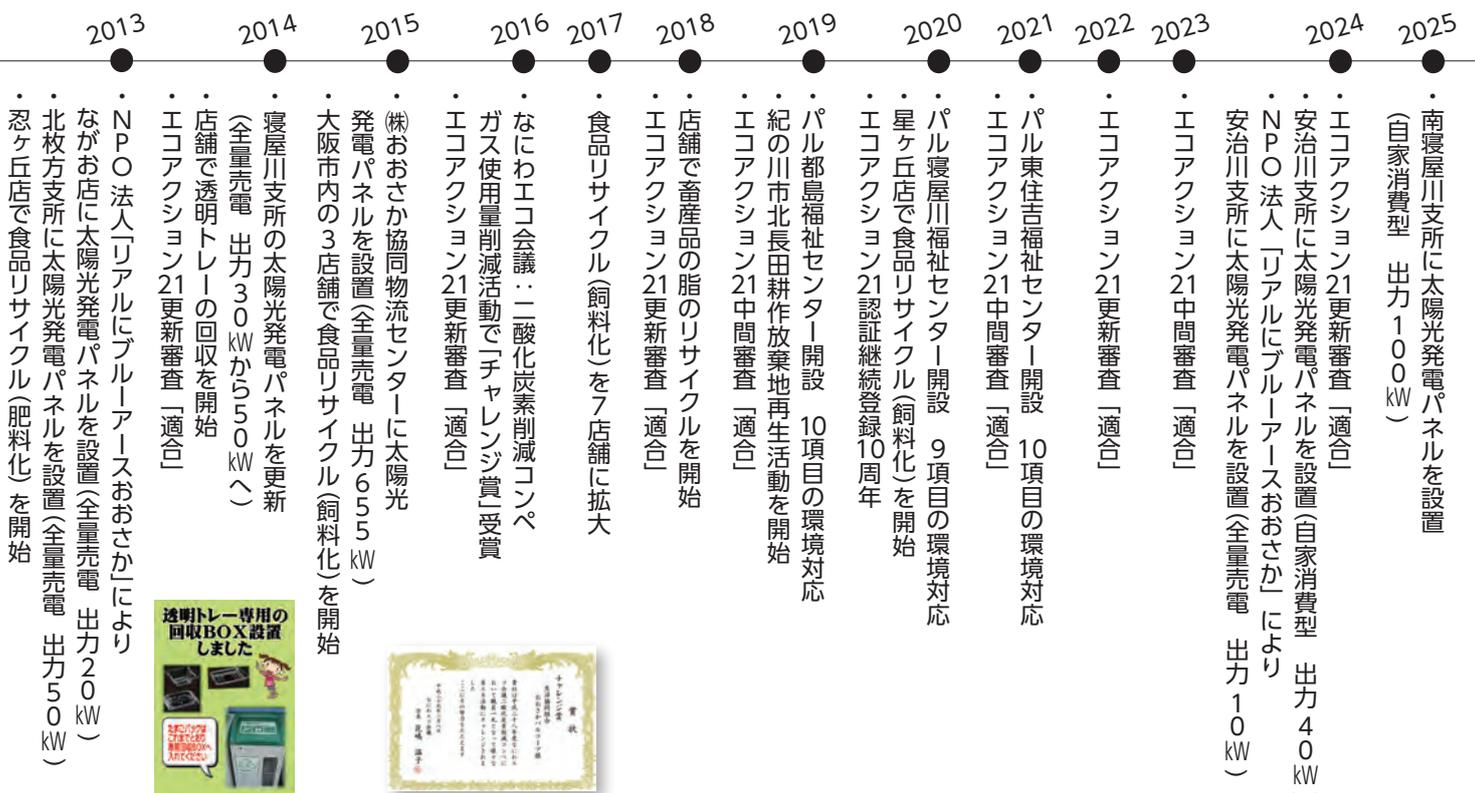


「子どもたち・未来のために、美しい地球のために」

子どもたちに自然環境のすばらしさを伝えていくことは、大人としての課題です。
未来を生きる子どもたちに美しい地球を渡せるよう、生協として地球温暖化防止の社会的責任を積極的に果たし、事業と活動をすすめていきましょう。

2025年5月

環境マネジメント推進委員会





環境マネジメントシステムを活用して 事業をすすめています

環境経営方針

基本理念

おおさかパルコープは、持続可能な循環型社会の実現を目指し、環境問題を重要な課題と位置付け、組合員とともに環境保全活動に積極的に取り組みます。

基本方針

おおさかパルコープは、組合員を対象とした食料品など生活関連の商品供給事業及び共済、福祉事業や旅行、チケット、暮らし関連などのサービス事業を行っています。こうした事業活動から発生する環境に大きな影響を及ぼす項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で環境目標、環境活動計画を定めて取り組み、環境負荷の軽減と汚染の予防、生物多様性の保全への配慮、環境マネジメントシステムの継続的な改善を行います。

1. 環境に配慮した商品やサービスの取扱いと普及をすすめます。
2. 地球温暖化防止のために、CO₂ 排出量削減に取り組みます。
 - ・積極的に省エネルギー機器導入に取り組みます。
 - ・電気、ガスの使用量削減に取り組みます。
 - ・配送効率や運転技術の向上、エコドライブの推進で車両燃料の削減に取り組みます。
3. 廃棄物の削減、リサイクルに取り組みます。
 - ・紙などの資源を効率的に使用し、使用量削減とリサイクルに取り組みます。
 - ・店舗では食品廃棄ロス基準を守り廃棄物の再生利用等に取り組みます。
 - ・組合員とともに、容器包装、商品案内チラシなどの回収リサイクルや、買い物袋持参に取り組みます。
4. 資源の有効活用、節水に取り組みます。
5. 商品検査室で検査に使用する化学物質の使用量確認を行い、適正管理を推進します。
6. 環境関連の法令、条例及び受け入れを決めたその他の要求事項を遵守します。
7. 組合員による環境活動を積極的に支援し、持続的発展を可能とする循環型社会構築に向けた社会的活動に広範に取り組みます。
8. 以上の活動を進めるために、職員に対する環境教育と環境コミュニケーションを積極的にすすめます。

この環境経営方針はおおさかパルコープの内外に公開するとともに、環境活動の取り組みの状況について定期的に公表します。

2001年7月21日制定
2024年6月20日改定
生活協同組合おおさかパルコープ

理事長 奥井 和久

事業活動にともなう環境負荷を最小限にとどめることを継続的にとりくむため、環境省が定めた環境マネジメントシステム「エコアクション 21」を活用し、各事業所ごとに立てた計画に対して、とりくみの進捗と目標が達成できているか、外部の審査機関の審査・認証をうけています。



2024年度も2024年11月に3日間、9事業所の審査をうけました。
環境へのとりくみが評価され「**適合**」の結果でした。



環境省
エコアクション21
認証番号0006252

2024年度 主な環境目標の実績と評価



事業所や部署ごとに、2024年度は25項目の目標を持ちました。
19項目は目標を達成したり実施することができましたが、6項目は目標を達成することはできませんでした。毎年目標の見直しを行いながらとりくみを継続します。

活動と評価		
電気使用量 	前年対比 101.5%	東住吉支所の稼働にともない増加しました。
ガス使用量 	前年対比 104.3%	京橋事務所の空調の使用が増えたことにより増加しました。
水道使用量 	前年対比 100.3%	東住吉支所の稼働や店舗・支所施設の故障などにより増加しました。
ハート栽培 農産物の 取り扱い 	114品目の認証と 156件の お届け前検査	ハート栽培農産物の実態把握を産地点検・農薬検査などを通して実施しています。環境に優しい農業生産の推進は、産地の環境保全にもつながるとりくみです。
食品ロス削減のとりくみ 1、野菜くずや消費・賞味期限の切れた食品 2、調理に使った食用油 3、魚のアラ 4、畜産品の脂 	すべての合計で 約262トン	全店で食品ロス削減のとりくみをすすめています。
燃料使用量の削減 	燃料使用前年対比 101.3% 車両台数前年対比 105.0%	車両の更新により燃費が向上しました。また、電気自動車を15台導入しました。
環境にやさしい電気自動車（営業用）の導入は11支所で計15台となりました。	 枚方支所	 樋之上支所



地球温暖化防止のためCO₂排出量削減の とりくみをすすめています

2024年度パルコープのCO₂排出総量は約12,349トンとなり、前年対比で101.0%と増加しました。

また、原単位*では20.5トンから20.4トンに減少しました。

*原単位：CO₂排出量を供給金額で割り算して、CO₂排出量を算出し、削減にとりくむ方式です。

毎年、設備改善と運用管理の強化でCO₂の排出量の削減にとりくんでいます。多くのCO₂を排出する事業者の社会的責任として、これからも削減のとりくみを積極的にすすめていきます。

日本生活協同組合連合会ではCO₂排出量の総量削減をすすめるため、全国の生協と協力して「温室効果ガス総量削減計画」をすすめています。「2030年度に全国生協のCO₂排出量を2013年度対比で50%以上削減」を目標としています。

全国生協のCO₂排出総量削減目標

2030年度に2013年度対比で**50%以上削減**

2024年度
パルコープの
CO₂排出総量
約**12,349**
トン

CO₂排出量の抑制 経年の推移と評価

電気使用のCO₂排出係数：0.423kg-CO₂/kWh
(日本生協連、全国統一CO₂排出係数)



太陽光発電設備について



再生可能エネルギーはCO₂の排出量を大幅に削減し、日本のエネルギー自給率を上げることにつながります。現在、パルコープでは(株)おおさか協同物流センター(655kW)を含めて925kWの太陽光発電が稼働しています。年間発電量は合計864,632kWhとなり、CO₂の排出量で約366トンの削減につながっています。

CO₂排出量の
削減効果
約**366**
トン分

年間発電量
864,632
kWh

設備
太陽光
発電

北枚方支所 (全量売電)	50kW
寝屋川支所 (全量売電)	50kW
港支所 (自家消費)	30kW
安治川支所 (自家消費)	40kW
南寝屋川支所 (自家消費)	100kW
(株)おおさか協同物流センター (全量売電)	655kW



電気使用のCO₂排出係数：0.423kg-CO₂/kWh
(日本生協連、全国統一CO₂排出係数)

パルコープ全体で環境に配慮した とりくみをすすめています



●共同購入(班配・個配)事業

事業活動にともない排出される容器包装(たまごパックや牛乳パック、商品お届け袋)、商品カタログなどのリサイクルにとりくんでいます。



商品カタログ
回収量
約**3,613**
トン

■支所でのリサイクルの様子



配送時に組合員さんから回収した商品カタログ(左)と商品お届け袋(右)



回収した商品カタログは古紙原料としてリサイクルされています。2024年度で約3,613トンを回収し、再資源化につながりました。

インターネット注文のeフレンズ登録を すすめることでペーパーレスを推進します



eフレンズに登録の方で、インターネット注文をされる方は商品カタログや注文書を利用されない場合が多く、「毎週の配布はいらない」との声をうけて、組合員さん自身で発行の停止ができるようにしています。

2024年4月eフレンズ登録人数
176,318名

2025年4月eフレンズ登録人数
187,232名

1年間で10,914名増加しています。

eフレンズを
登録されている方のうち、
30,716名が
商品カタログのお届けを
停止されています。

もずくを食べてサンゴが育つ海づくり サンゴ再生もずく基金

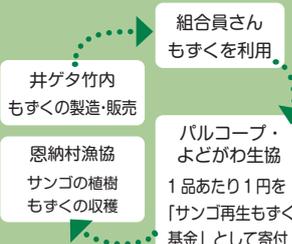
サンゴ



2013~2023年度
植え付け本数の
累計
865本



サンゴ再生もずく基金



～サンゴ再生もずく基金～

「恩納村産 味付糸もずく」など



産地・メーカー・生協・組合員が手をつなぎ、もずくの育つ里海を守るとりくみです。

パルコープは2013年に「恩納村コープサンゴの森連絡会」に加入して以降、「サンゴ再生もずく基金」として組合員さんより寄付いただいた基金を、沖縄の自然を守るサンゴの植樹(基台の購入)に活用してきました。しかし、海水温の上昇の影響により、2024年8月中旬頃より恩納村のサンゴの白化が進行しています。そのため、2024年度の「サンゴ再生もずく基金」は、もずく植え付けのための環境整備(白化したサンゴの除去)に活用させていただきます。

また、2024年度環境事業積立金より100万円を取り崩し、海の環境整備の一環として恩納村漁協さんへ寄附を行いました。



2024年7月3日
目立った白化は見られない



2024年8月26日
天然も養殖のサンゴも白化が進む

耕作放棄地再生活動 with 紀ノ川農業協同組合

和歌山県紀の川市 長田地区

高齢化や後継者不足などにより年々耕作放棄地が増えており、和歌山県では耕作面積全体の約12%を占めていると言われています。紀ノ川農協では地域づくり再生プロジェクトの一環として、耕作放棄地を再び農地として復活させるためのとりくみを行なっています。そのお手伝いとしてパルコープでは2019年1月より耕作放棄地再生活動にとりくんでいます。



雑草が生い茂っている耕作放棄地



草刈り機できれいにしていきます

紀ノ川農協さんはこんなことにもとりくんでいます！

生協と生協以外の団体の協働を応援する「CO・OP共済 地域ささえあい助成」を利用し、空き家などを組合員さんが訪問される際に使用できる集会室や、わかやま市民生協の組合員さんが利用するステーション班受け取り用の施設にリノベーションされました。



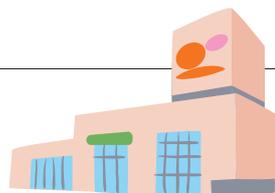
集会室の中の様子



ステーション班受け取り用の施設

●店舗事業

お店では販売数の管理徹底など廃棄物を出さない工夫をし、残った食品は有効利用する食品ロス削減のとりくみをすすめています。



食品
リサイクル
約126トン

1、食品リサイクル
(野菜くずや消費・賞味期限の切れた商品) → 約126トン

2、調理に使った食用油 → 約11トン

3、魚のアラ → 約99トン

4、畜産品の脂 → 約26トン



食品リサイクルは2024年度で約126トンがリサイクルされました。食用油は車両燃料に、野菜くずや魚のアラ、畜産品の脂などは、飼料原料や油脂として再利用されます。店舗のとりくみとして、午前中に調理する商品を来店状況に応じて準備をし、夕方に向けても調理したての商品を提供することで廃棄する量が減少するようにすすめています。

マイバッグのとりくみ

2020年7月1日からレジ袋が有料化されました。パルコープでは2025年3月時点のマイバッグの持参率は88.2%で、レジ袋は約445万枚削減されていることとなります。毎年新しい組合員さんを迎える中、マイバッグ持参運動を地道に続けていることが、高い持参率の維持につながっています。



レジ袋について

2021年3月より、レジ袋をポリエチレン製の袋から、バイオマス*25%使用の袋へと変更し、再生利用可能な有機物の構成を高めています。なお、マイバッグ持参をすすめるため、有料（1枚5円）での提供は継続しています。組合員みなさんには、引き続きご協力をお願いいたします。

*バイオマス：動植物から生まれた再利用可能な有機性（石油などの化学燃料を除く）の資源のことです。

3Rで資源の有効活用を
すすめています



リデュース
Reduce



リユース
Reuse

リサイクル
Recycle

今後も包装資材の代替えや不必要なものの廃止、分別やリサイクルなどを通し、消費者の意識と社会システムの整備に向けてとりくみを続けます。

リサイクル品2024年度回収量

回収量

商品カタログ		3,613t
共同購入	紙飲料パック	67,630kg
	たまごパック	36,710kg
	商品お届け袋	42,920kg
店舗	紙飲料パック	14,047kg
	たまごパック	10,342kg
	ペットボトル	29,618kg
	ビン	50,923kg
	カン	7,997kg
	食品トレー	42,799kg
	乾電池類	2,287本
	蛍光灯管(大阪市内)	2,905本
共同購入+店舗	発泡スチロール	18,580kg
	ダンボール	414t



の回収ボックスが目印です♪



回収ボックスに集まった食材



FOOD BANK
KANSAI

HOME

- (株)おおさか協同物流センターではフードバンク*活動への食品提供を行なっています。フードバンク関西へは3週間に1回のペースで2024年度は関西の164団体の福祉施設に、7,373kgの食品提供を行いました。
- 「パルコープこども食堂フードバンク」では、パルコープエリア内の95団体100ヶ所の子ども食堂と6つのシングルマザー支援団体(2025年3月現在)に食材をお届けしています。

*フードバンクとは、包装の傷みなどで、品質に問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなるなど、さまざまな理由で処分されてしまう食品を、必要としている人や団体に無償で提供する活動です。



1日エコライフにとりくみました



今回参加人数
3,446名
(組合員+職員)
CO₂削減量
約**1,860kg**

『コープみんなでエコ! 2024』のとりくみ結果

私たちの暮らしの中から二酸化炭素 (CO₂) をなるべく出さないことが、地球温暖化防止につながります。エアコンの温度管理や買物袋の持参、ゴミの分別リサイクル、車は使わず徒歩での外出など毎日の暮らしの中で環境を守るとりくみにつながることはたくさんあります。

組合員さんには毎年、OCR アンケートなどを通じて、身近にできることにチャレンジしていただいています。1日エコライフには職員も一緒にとりくみ、合計で3,446名が参加、CO₂排出量で約1,860kgの削減につながりました。



「冬の1日エコライフにチャレンジしましょう」
ぱるタイム OCR アンケート

1日エコライフに参加された方の声や、工夫されたことを紹介します♪

1人くらい心がけたって
ではなく1人ずつの
少しいかがいが
大事だと思いました。



環境面もそうですが
物価が高騰しているので
経済的なことも考えて
とりにくかったです。

できるだけ
自動車を利用せず
公共交通機関を
利用しました。



地域や行政と連携し、様々なイベントに参加・協力しました

ライトダウンキャンペーン

環境省では 2003 年より地球温暖化対策のため、ライトアップ施設や家庭の照明の消灯を呼びかける「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」を実施してきました。

パルコープでも家庭や職場において、周りの電気を消すことで、地球環境の大切さを再確認し、地球温暖化対策について考える契機として、夏至の6月21日とクールアースデー*の7月7日に、午後6時から午後9時で各店内の一部の消灯を行いました。

*クールアースデー：毎年7月7日の七夕の日に、日本各地で開催される「地球環境について考える日」のことです。

▶ つるみ店



ライトダウンキャンペーン
当日は、来店された組合員さんへ
いちごやにんじんの
種付きのうちわを
お配りしました。

打ち水大作戦

2024年度も枚方市では地球温暖化対策協議会からの要請をうけ、8月に枚方市の全店で「打ち水大作戦」にとりくみました。来店いただいた組合員さんより「涼しくなっているね」「風流やね」などの声をいただきました。



▶ 枚方公園店



▶ 星ヶ丘店



家庭の容器包装プラごみ・使い捨てプラごみ調べ

全大阪消費者団体連絡会などが呼びかけて実施した「家庭の容器包装プラごみ・使い捨てプラごみ調べ」にパルコブから39名の組合員さんが参加しました。

参加の組合員さんからは「まだまだプラごみを減らすことはできると感じました。自分で意識することで、選ぶ商品も違ってくると思います。なるべくマイバッグ、マイボトル、マイ弁当でいこうと思います。」などの感想が寄せられました。軽くて丈夫で衛生的など、良い点もあるプラスチックですが、燃やせばCO₂を出すなど環境への影響を知るきっかけとなりました。



省エネチャレンジノート

地球温暖化防止に身近なところからとりくむ、特定非営利活動法人地球環境市民会議（CASA）主催の「省エネチャレンジノート〈2024年夏〉」には、2か月版に19名、1週間版に26名、子ども版に1名が参加しました。

参加の組合員さんからは「省エネチャレンジは家族で省エネについて話し合う1つのきっかけになっているのでこれからも続けていきたいと思います。」「洗濯の工夫は知らないこともあって参考になりました。」などの感想が寄せられました。



※写真は「省エネチャレンジノート〈2024年夏〉」の冊子です。

OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2025

リアルに協同発電しよ・なご
NPO法人 リアルにブルーアースおおさか

みんなの力で
つくりました

一般家庭の年間消費電力の
約6軒分を発電しています

太陽光発電所
只今の発電電力
152 kW

のべ270名の協力による
市民共同発電所です

2014年1月29日 売電スタート

電気使用のCO₂排出係数：0.423kg - CO₂/kWh
(日本生協連、全国統一CO₂排出係数)

「自分たちで市民共同発電所を作ろう」とパルコープの組合員さんの中で立ち上げた『NPO法人 リアルにブルーアースおおさか』。2014年1月、なご店の屋根に設置した20kWの太陽光発電設備では、2024年度は19,949kWhが発電され（一般家庭の4軒分）、火力発電で発電した場合と比べて約6.4トンのCO₂排出を削減できました。

また2024年9月には安治川支所の屋根に「リアルにブルーアース2号機」が設置され、2025年3月まで3,886kWhが発電されました。

「リアルにブルーアースおおさか」
なご店屋根 太陽光発電設備

「リアルにブルーアースおおさか」の
アースちゃん

おおさかパルコープ 概要

2025年3月20日現在

名称 生活協同組合おおさかパルコープ
設立 1991年3月21日
職員数 フル職員1,037人、嘱託職員80人、パート職員1,768人
供給高 602億円
組合員数 450,989名

共同購入支所数 16支所
店舗数 9店舗
組合員会館 4ヶ所
組合員集会所 14ヶ所

 生活協同組合 おおさかパルコープ

大阪市都島区東野田町 1-5-26
<https://www.palcoop.or.jp/>

2025年5月発行